

ふるさとと歴史 アラカルト

民俗学者 宮本常一と岩国

今回は、山口県出身の民俗学者宮本常一について紹介します。

宮本常一は明治40(1907)年、周防大島町に生まれた民俗学者です。日本各地で精力的にフィールドワークを行っていたことから「旅する巨人」ともいわれました。調査や移動時に撮影した写真は約10万枚にも及ぶといわれています。

宮本は岩国にも度々訪れているので、日記や写真資料(※)をもとにいくつか紹介します。昭和36(1961)年10月16日の日記には「はれ。錦帯橋を見にゆき、城址や永興寺などを見てある」と記され、錦帯橋や横山地区の写真が多く残っています。昭和41年8月20日には、岩国駅から国鉄バス(岩益線)に乗って島根県日原へ行きました。日記に詳しい記述がないものの、写真には錦川の川舟や吊橋など、美川町で見られた生活風景が残されています。昭和46年4月には、一泊二日で行波の神舞調査を行いました。4月4日の日記に「朝、行波へゆき、資料の写真をと

り、それよりカグラを見る。見物客多し。はれてよき日。夜9時までかかる。夜風寒し。」とあります。同年8月には美和町の民俗調査で約一週間滞在しました。生見川ダム工事に伴い、水没する地域の民俗を調査するためです。8月28日の日記に「朝、西畑の古い墓地をしらべ、黒瀬にいつて民具調査みな親切にしてくれる。したがって能率も多いにあがる」とあり、民俗調査に対する地元の協力的な姿勢がうかがえます。周防大島文化交流センターには、この時の調査ノートが今も大切に保管されています。

このように、宮本は移動や調査で岩国を度々訪れていたことが分かります。また宮本によって撮影された写真は、岩国の過去の様子をありのまま教えてくれる貴重な資料でもあるのです。

※引用『宮本常一 写真・日記集成 上・下巻』

9月11日(日)まで、岩国徴古館で企画展『宮本常一が見た錦川流域』を開催中です。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

宮本常一が撮影した写真(周防大島文化交流センター所蔵)



▶ 錦帯橋(昭和36年10月16日撮影)



▶ 美川町の川舟(昭和41年8月20日撮影)

岩国市 人口・世帯

人口 138,894人 【前月比 - 155人】 男性 65,794人 女性 73,100人

世帯 66,377世帯 【前月比 - 51世帯】 ※外国人人口を含む(平成28年7月1日現在)

交通事故発生件数 6月分事故件数 36件(236件) 死者数 1人(6人) 傷者数 42人(286人)

※高速道路発生分を除く ※()内は平成28年累計

広報テレホン 休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ 「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337